



8:10 ゼバフとツアルムナはカルコルにいたが、約一万五千からなるその陣営の者も彼らといっしょにいた。これは東の人々の陣営全体のうち生き残った者のすべてであった。剣を使う者十二万人が、すでに倒されていたからである。

8:11 そこでギデオンは、ノバフとヨグボハの東の天幕に住む人々の道に沿って上って行き、陣営を打った。陣営は油断していた。

8:12 ゼバフとツアルムナは逃げたが、ギデオンは彼らを追って、ミデヤンのふたりの王ゼバフとツアルムナを捕らえ、その全陣営をろうばいさせた。

8:13 それから、ヨアシュの子ギデオンは、ヘレスの坂道を通って戦いから帰って来た。

8:14 そのとき、彼はスコテの人々の中からひとり若者を捕らえ、尋問した。すると、彼はギデオンのために、スコテのつかさたちと七十七人の長老たちの名を書いた。

8:15 そこで、ギデオンはスコテの人々のところに行き、言った。「あなたがたが、『ゼバフとツアルムナの手首を、今、あなたは手にしているのか。私たちがあなたに従う疲れた人たちにパンを与えなければならぬなどとは』と言って、私をそしめたそのゼバフとツアルムナが、ここにいる。」

8:16 そしてギデオンは、その町の長老たちを捕らえ、また荒野のいばらや、とげを取って、それでスコテの人々に思い知らせた。

8:17 また彼はペヌエルのやぐらをたたきこわして、町の人々を殺した。

8:18 それから、ギデオンはゼバフとツアルムナに言った。「おまえたちがタボルで殺し

た人たちは、どこにいるのか。」すると彼らは答えた。「あの人たちは、あなたのような人でした。どの人も王の子たちに似ていました。」

8:19 ギデオンは言った。「彼らは私の兄弟、私の母の息子たちだ。主は生きておられる。おまえたちが彼らを生かしておいてくれたなら、私はおまえたちを殺しはしないのだが。」

8:20 そしてギデオンは自分の長男エテルに「立って、彼らを殺しなさい」と言ったが、その若者は自分の剣を抜かなかった。彼はまだ若かったので、恐ろしかったからである。

8:21 そこで、ゼバフとツアルムナは言った。「立って、あなたが私たちに撃ちかかりなさい。人の勇氣はそれぞれ違うのですから。」すると、ギデオンは立って、ゼバフとツアルムナを殺し、彼らのらくだの首に掛けてあった三日月形の飾りを取った。

敵の王たちを捕らえたギデオンは、以前に宣言したように、スコテとペヌエルの人々に報復します。その後、敵の王であるゼバフとツアルムナを殺します。

敵は大打撃を受けましたが、まだ一万五千人が残っており、三百人のギデオン軍に対しては油断していました。力が弱いことが勝利の要因だったのです。

ギデオンがスコテやペヌエルの人々に報復したのは、同胞を滅ぼすのではなく叱責を与えるものでした。敵は敵として、主の愛は主の愛として混同しないようにしなければなりません。

ギデオンはゼバフとツアルムナが同胞を殺したことを知り、その報復として彼らを殺します。これは正しい対処と見ることもできますし、また私

情による報復と見ることもできます。いずれにしても、主に敵対するものを残しておいてはなりません。私たちにとっても同じで、それが人であればその人を悔い改めに導く必要がありますが、あくまでも愛によって働く聖霊に力があります。また人以外のものであるならそれを処分する必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

